

サポセンからのお知らせ

● 市民ライター講座2015
～取材・執筆体験で磨く！情報発信力～

託児あり

日 時：4回連続十取材体験
6月19日、6月26日、7月3日、7月10日
いずれも金曜日 午前10時～12時
6月27日～7月2日 取材体験
いずれか1日、市民活動団体を取材し、執筆

講 師：大泉大介さん(河北新報社デジタル推進室記者)
場 所：仙台市市民活動サポートセンター
定 員：10名
参加費：無料
託 児：500円/回(6ヶ月～未就学児)
申込み開始：6月8日(月)
申込み〆切：6月12日(金)
申込み・問い合わせ：仙台市市民活動サポートセンター
TEL 022-212-3010 / FAX 022-268-4042
Mail sendai@sapo-sen.jp
件名を「ライター講座申込」とし、お名前・ご所属・連絡先・参加動機をお知らせください。託児をご希望の場合は、お子様の年齢と人数、希望日数をお知らせください。

● 市民活動を「知る」時間
ハジマルフクラムプロジェクト

日 時：6月27日(土)午後1時半～午後3時半
内 容：仙台で活動している2つの団体をお招きし、活動をはじめたきっかけから現在にいたるまでのお話を伺うトークイベント。お気軽にご参加ください！
ゲスト：ケニアと仙台を結ぶ教育と手仕事の支援をしている、NPO法人 アマニ・ヤ・アフリカ 理事長 石原輝さん
仙台で人と犬とのふれあい体験の機会づくりをしている、NPO法人 エーキューブ 理事長 齋藤文江さん
場 所：仙台市市民活動サポートセンター
地下1階 市民活動シアター
参加費：500円(ワンドリンク付き)
対 象：市民活動やボランティアなどに興味のある個人やグループ。
申込み開始：6月8日(月)
申込み・問い合わせ：仙台市市民活動サポートセンター
TEL 022-212-3010 / FAX 022-268-4042
Mail sendai@sapo-sen.jp
件名を「ハジフク申込」として、お名前・ご所属・連絡先・参加人数をお知らせください。

つながる つなげる サポセン

仙台市市民活動サポートセンターとは

様々な分野の市民活動団体やNPO、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちや、これから活動しようと考えている人たちの拠点施設です。

このようなご相談おまかせください。

- 市民活動の立ち上げ、法人格の取得、団体運営、組織運営などの相談
- 協働についての相談
- 復興支援活動、シニア活動・セカンドライフなどの相談

今月の休館日：6月10日(水)、24日(水)

今月の表紙

2015年4月25日(土)、26日(日)に宮城県川崎町のエコキャンプみちのくで開かれた「荒吐 ARABAKI ROCK FEST.15」。NPO法人ボランティアインフォは、ボランティアなくして荒吐はない!?を合言葉に、フェスを影で支えるボランティアチームを率いました。熱気あふれる会場で、奔走する北村さんです。

開館時間 月曜日～土曜日 9:00-22:00 日曜日・祝日 9:00-18:00 / 休館日 毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日) 年末年始

HP <http://www.sapo-sen.jp>
Blog <http://blog.canpan.info/fukkou/>
Twitter @sensapo

「ぱれっと」バックナンバーはホームページからダウンロードできます。

▶ ぱれっと読者アンケートにご協力お願いします。
サポセンホームページからアクセスいただくか、
携帯電話等でQRコードを読み取ってご利用ください。



発行 仙台市市民活動サポートセンター
〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3
TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042
地下鉄南北線「広瀬通駅」西5番出口すぐ
発行日 2015年6月1日
編集 特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター
デザイン PEACE Inc.
編集人 菊地 竜生 太田 貴 菅野 祥子 葛西 淳子 松村 翔子

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行っています。[指定管理期間2015年4月1日～2020年3月31日]

ぱれっと 6

仙台市市民活動サポートセンター通信 ぱれっと 2015 No.190

“ぱれっと”には、サポセンにいろいろな人が集まり、それぞれの色(個性)が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。

今月のワクワクビト

ボランティアを
より身近なものに

NPO法人ボランティアインフォ
代表理事
北村孝之
TAKAYUKI KITAMURA

音楽フェス、スポーツイベント、地域のお祭りなど、仙台のまちには市民参加型の催しが数多く実施され、その運営にボランティアが活躍する現場がたくさんあります。「年間20数ヶ所の市民企画をコーディネートし、のべ1,800人のボランティアたちと一緒に活動しています」という、北村孝之さん(33)。ボランティアを求めている団体と、ボランティアをしたい人をつなぐ役目を担っています。北村さんはこれまで、少年サッカーチームの指導、東京の仲間と立ち上げたNPOでカンボジアに小学校を建てる教育支援を経て、東日本大震災後の被災支援活動に携わってきました。自身の将来を見据えて、一つひとつステップを刻みながら様々なことに挑戦しています。「ボランティアの入口はいろいろある」と北村さん。何かやってみたくて一歩が踏み出せない人へは、「まず自分の興味や関心がある活動に参加し『ボランティアって楽しい!』という体験をしてもらいたい」と、もっとボランティアを身近にとらえ、気軽に体験してみようことを勧めてくれました。

特集

みんなが生きやすい社会へ

東北レインボー SUMMER フェスティバル

NPO法人ボランティアインフォ
連絡先：仙台市青葉区本町1-12-12GMビルディング2階
TEL 090-8397-9797 / Mail info@volunteerinfo.jp / HP <http://volunteerinfo.jp/>

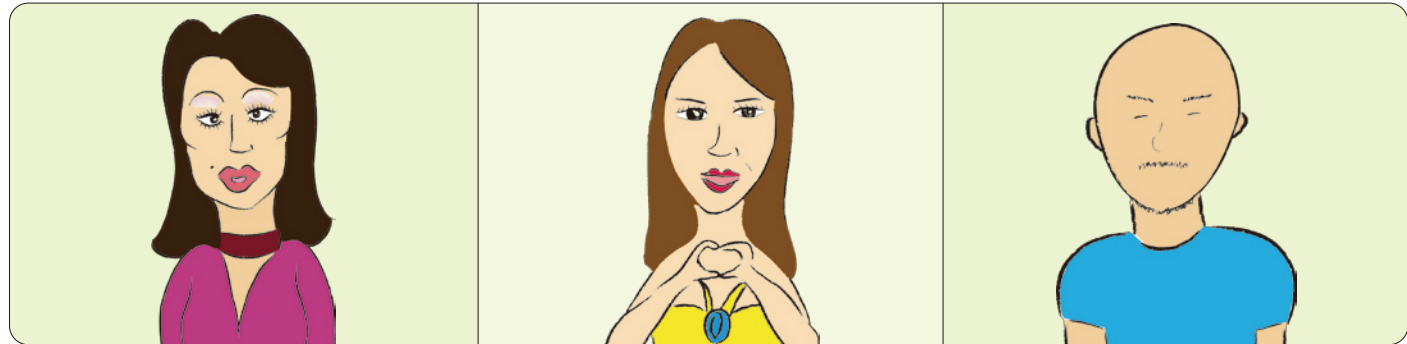
東日本大震災のボランティア情報を収集し、インターネットを中心に配信しながら、イベントなどのボランティア企画から当日のコーディネートなど、ボランティアの場作りを実施。ボランティア促進・啓発として、高校生と一緒に地域社会の課題を解決するためのボランティア体験プロジェクトも今年から開始。何かボランティアをやってみたくてと思った方は、団体ホームページに掲載されている新着ボランティア募集情報をご覧ください。



特集

みんなが生きやすい社会へ 東北レインボーSUMMERフェスティバル

東北レインボー SUMMERフェスティバルは、「東北にも性的少数者がいる」というメッセージを掲げ、多様な性に関わる東北の団体が合同で開催するイベントです。レインボー(虹)は、多様な性の象徴として世界各地で用いられています。仙台七夕まつりなどで東北が一番熱く盛り上がる季節に、この催しを仕掛ける人々と、その思いをご紹介します。



あねご
A n e g o
代表

じょしじょし
♀×♀
お茶っこ飲み会・仙台 代表

やろっこ
代表

すがわら
キャシー菅原 さん

めめ
M E M E さん

おおた
太田ふとし さん

(イラスト：太田ふとし)

あらゆるセクシュアリティの人が尊重される世の中をめざして、2007年より仙台を中心に活動しています。会員は10人、そのうちコアメンバー 4人が運営しています。主な活動は、毎回テーマを決めて開催する「アネゴ・ティーパーティ」。性別、年齢、国籍、障がいのあるなしを問わず多くの方が参加し、多様性を感じ、認め合う場となっています。

2010年9月から活動を開始。市民センターなどで交流会を開催しています。女性が好きな女性たちが、ゆるやかに集まってお茶飲み会をしています。5人から始めた活動ですが、回を重ねるごとに人数が増え、最大で58人が参加するようになりました。その他フリーペーパーの発行や、七夕の連ねた鶴に想いを込める「レズルプロジェクト」を実施しています。

東北・仙台のゲイ・コミュニティを中心に、HIV感染症やAIDS(エイズ)について正確な情報を届ける活動しているボランティアチームです。ポスターやカードの作成、WEBでの情報発信、(公財)エイズ予防財団が全国で展開しているコミュニティセンターの1つ「community center ZEL」(仙台市)の運営協力をしています。協力ボランティア約10人は、ゲイ男性。

性の多様性について理解を深める

レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーなどの性的少数者について話をする時、海外やテレビの中の世界、東京・大阪などの大都市の遠い世界のことと思われがちです。しかし、性的少数者は人口比の3～5%つまり、20～30人に1人の割合で存在すると言われています。それは、東北でも同じこと。しかし、保守的な土地柄である東北では、性的少数者に対する理解が低く知識も不足しているため、差別や偏見の対象になっているようです。「特に地方の女性の場合は、周囲に当事者であることを打ちあけにくい状況にあります。地

方にいる当事者の存在をもっと知ってもらいたいです」とMEMEさんは、日頃の活動を通じ感じている課題を指摘します。「当事者もその周りの人たちも一緒に参加し、お互いにふれあえる機会をつくりたいんです」とキャシー菅原さん。

上記3団体が中心となり「東北レインボー SUMMERフェスティバル」を企画しました。フェスティバルでは、東北各地の活動を発表するブース展示や、ポエトリー・リーディング&トークショー、ジェンダー(社会的性役割)にこだわることの滑稽さを伝えるパフォーマンスなどが披露されます。

お役立ち本 『戦争をしなくてすむ世界をつくる30の方法』
平和をつくる17人・著／田中優・小林一朗・川崎哲・編集／上村良治・発行

「世界が平和であることを望むのなら、そうなるための努力をそれぞれが日常の中でしていかなければいけないと思う」。2003年3月、アメリカ軍がイラク攻撃を開始した直後、人気ミュージシャン桜井和寿(さくらいかずとし)さんが配信したメッセージです。共鳴した人々は具体的な方法を集めました。平和のために、自分ができることは何かを考えるきっかけとなる一冊です。



コトハシメ 6月1日(月)～6月30日(火)
場所や本との出会いを楽しむ「私的研究本」

本にまつわる様々な企画を仕掛ける団体、Book!Book!Sendaiの新企画。「私的研究本」とは、個人的に夢になっているコト、こだわっているモノなど、ライフワークのように探求しているなかで読んできた本のこと。仙台のギャラリー、カフェ、書店、せんだいメディアテーク、サポセンなどを会場に様々な私的研究本が展示されます。



▲「6月は本の月」をキャッチフレーズに、仙台のまちが本であふれる1ヶ月

図解 多様な性に関わる東北の26団体がつながる



東北初！セクシュアリティな団体が一堂に集まる

東北の性的少数者を可視化しようという呼びかけに応え、青森、秋田、岩手、山形、宮城から集まった参加団体の総数は26団体。このうち東日本大震災以前から活動していたのは9団体だけで、そのほとんどが震災後に立ち上がった団体です。「震災を機に、自分の生き方を考え直そうという機運が高まり、当事者同士でつながるきっかけになったんだと思います」とMEMEさん。多様な性のありようを考えようと「セクシュアリティ」という共通キーワードのもとに集まり、ゆるやかなネットワークが広がっています。

今回の試みを通し、見え難くなっていたセクシュアルマイノリティと出会い、その存在を正しく知ることによって「意外と普通のことだったんだ」と思ったり、すぐ隣にいてもおかしくないんだと分かってもらえるといいなあ」と太田ふとしさんは言います。当事者や特定のコミュニティだけでなく、誰もが気軽に集まれる仕掛けをすることで、多様性を認め尊重する社会の実現につながるのではないかと期待されます。(取材・文 葛西淳子)

連絡先
A n e g o
仙台市青葉区一番町4-1-3 レターケースNo.26
Mail anegosendai@yahoo.co.jp

インフォメーション 市民だから伝えられることがある 市民ライター講座

誰もが情報を発信できるようになった時代。私たちの住むまちには、地域の情報を住民で収集発信し、必要とする人に届けようと、フリーペーパーやミニ新聞、ブログなどの様々なメディアがあります。どれも、マスコミで扱うものとはちょっと違う、市民目線の大切な情報。今、地域活動の現場で求められる「伝える力」。サポセンでは、プロの記者から執筆ノウハウを学び、NPOや市民団体を取材する体験を通じて、市民の目線で情報発信する力を身に付ける「市民ライター講座」を企画しました。書くことや取材体験を通じて、仙台のまちや人と関わりながら、あなたの目線で情報発信してみませんか？詳しくは、裏面の「サポセンからのお知らせ」をご覧ください。



▲模擬インタビューや文章添削もあります